

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (津東高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○地域における進学校としての教育・進学ニーズに真正面から応える学校。</p> <p>○自立・進取の気概を持ち切磋琢磨に努め、不断の進化を続ける学校。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○「向学立志」の校是を理解し、自らを磨くため、高い目標を持って学習や部活動に取り組み、真摯に自分自身の人生の進路を切り拓こうと励んでいる。</p> <p>○一人ひとりが適切に自己目標を設定・達成することで、自尊感情・自己肯定感・自己有用感を獲得している。</p>
	ありたい 教職員像	<p>○前例主義を打破し、失敗を恐れず積極的に新しいことにチャレンジできる教職員。</p> <p>○「無理、無駄、できない」でなく「どうしたらできるか」を考え行動できる教職員。</p> <p>○基本的な生活習慣、確固とした基礎学力を土台に、生徒一人ひとりの価値観の確立・自己実現や、心豊かな人間性の創造を支援する教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> できれば国公立大学に進学したいと希望しており、それを実現できるよう、学力を付けられるわかりやすい授業を望んでいる。</p> <p><保護者> 子どもをできれば国公立大学に進学させたいと希望しており、それを実現するための授業力・進路指導力を期待している。</p> <p><地域・県民> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者・PTA> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をして欲しい。</p> <p><地域> 地域の活性化に協力し、信頼できる学校となって欲しい。</p> <p><進学先(大学等)> 基礎学力と明確な目的意識、課題解決のための「思考力・判断力・表現力」を育んで欲しい。</p> <p><学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 高校卒業後の進路状況などの情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試に向けた連携をして欲しい。</p>	<p><保護者・PTA> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をして欲しい。</p> <p><地域> 学校教育活動に理解や協力をして欲しい。</p> <p><進学先(大学等)> 生徒の進路希望実現のための情報提供をして欲しい。</p> <p><学習塾等学習産業> (中学生対象の学習塾) 中学生保護者へ本校教育活動の情報提供をして欲しい。 (高校生対象の学習塾) 大学入試関連の情報提供をして欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○主体的に活動する生徒を育成するために、外部講座など校外の学習に参加させ、またその成果を発表させる機会を設けるなどして、具体的行動モデルを示していく必要がある。</p> <p>○本校での高校生活全体を通してどのような力をつけて欲しいと考えているのか、生徒にメッセージを出し、ポートフォリオなどで振りかえりさせる必要がある。</p> <p>○時間外労働時間が、昨年比べて増えている。時間外労働が当たり前になってはいけなないので、削減に向けた取組を具体的に考える必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	生徒の学校生活は落ち着いており、学習や部活動に熱心に取り組んでいる。ただ、大人しい生徒が多く、自主性や積極性にやや欠け、高い目標設定をせず諦めてしまう場合がある。きめ細かな指導により自尊心や学習に対する意欲が高まり、国公立大学への進学者も増えている。引き続き課題の量や質を教科横断的に調整し、個々の学力に応じて必要な負荷を掛ける一方で、学習内容や量を自ら選択できるように習熟度別課題を用意するなど、生徒が主体的・自立的に学習に取り組める仕組みを工夫する必要がある。
	学校運営等	職員の過重労働時間が長くなっているが、生徒の進路希望実現のため、教科指導や進路指導等の時間は削減できない。その他の業務で時間短縮できるよう、学校運営のさらなる効率化を図る必要がある。「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす」という目指す姿の具現化のため、校内の縦横の連携を強化し、職員の意思統一を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒の進路希望実現と「生涯学び続け得る学力」をつけるために、生徒の学習実態を定期的に調査するとともに教員の授業力向上に学校全体で取り組み、生徒への「しかけ」や校内の「しくみ」について検討する。また、学習指導要領改訂や入試制度改革などの変化を本校の教育活動に取り入れるため、情報収集や研修会を進めていく。</p> <p>○部活動と学習の両立のための時間の使い方など、基本的な生活習慣を確立させる。一人ひとりの自尊心を育成し、命の大切さや主体性につなげる一方で、人の気持ちを理解し他者と支え合いながら社会を創っていく社会人基礎力を育む。</p>
学校運営等	<p>○学年や分掌間で連携し、明るく相互に認め合い協力し合える組織文化を培うとともに、情報共有のしくみを作るなど、職員相互の対話と情報共有を促進し、学校全体の組織力を向上させる。</p> <p>○業務の効率化を図り、総勤務時間の削減に取り組むことで、教職員が元気にいきいきと職務を遂行できる環境づくりに努める。また部活動については「三重県部活動ガイドライン」に基づき、「学校部活動運営方針」を策定し、その周知徹底と運用に取り組む。</p> <p>○学校運営への保護者・地域住民の参画を呼びかける。またホームページによる学校教育活動の情報提供を充実させるなど、開かれた学校づくりに取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路希望の実現	<p>○生徒の進路実現に向け、各種ガイダンスのほか、大学についての情報調べや卒業生などの講演など、進路について考える機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の出願が90%以上 ・国公立大への出願者160名 <p>○総合的な学習の時間等の各種取組を通して、世の中に対して探究心や広い視野を持たせるため、体系的なキャリア教育を実施する。</p> <p>○生徒一人ひとりとの丁寧な面談を、年間を通して実施する。</p> <p>○奨学金制度の紹介や手続きを行い、経済的な面から生徒の進路希望実現の支援を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	
学習環境の整備	<p>○教育課程の問題点を検討し、改善を図るとともに単位制・習熟度別授業のあり方について再考し、講座の検討を行う。</p> <p>○授業時間および授業規律の確保に努めるとともに、生徒の二</p>	(年度末および適宜記載)	

	<p>ーズに対応するよう、放課後・土曜・夏期に補講を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間については、1年生で平日2時間、休日3時間 <p>○快適な学習環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇期間には自習室を設置し学習場所を提供する。 ・机・椅子・教室のカーテンは、適宜交換し環境整備に努める。 ・より良い学習環境を提供するために、掃除を徹底する。 ・美化委員による清掃確認:年16回 ・大掃除(中掃除含む):年8回 ・ゴミゼロ運動・夏期除草作業・クラブ一斉清掃:年各1回 		
自主性・主体性の育成	<p>○LHRや総合的な学習の時間を通して、自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる。</p> <p>○学校行事への主体的な参加を促すとともに、適切な事前準備や雰囲気づくりに努める。</p> <p>○差別を見抜き、差別を許さない態度と差別解消に向けて主体的に行動する力を育てる。</p>	(年度末および適宜記載)	
安全・安心な学校づくり	<p>○実効性のある防災、危機管理教育や訓練を目指して、教育訓練を行う。</p> <p>○自らの健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることの出来る生徒を育てる。</p> <p>個別の健康指導(視力/口腔の健康など):年2回以上</p> <p>○心の面でバランスを崩した生徒へのケアのため、スクールカウンセラーをはじめ様々な機関と連携し適切なケアを行う。</p> <p>保健室利用状況の報告と学年との情報交換:年10回</p> <p>教育相談係との連携:年20回以上</p> <p>○いじめや差別を許さず、一人ひとりの個性の違いを認め、互いに尊重することができる仲間づくりをする。</p> <p>○施設の老朽化に留意しながら適切な維持管理を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	
自尊感情と社会人基礎力の育成	<p>○思考力・判断力・表現力の育成と併せて、生徒同士が自分を語り、他者との違いを考えるなどコミュニケーション能力の育成と伸長を図る。</p> <p>○自分の行動に責任を持ち、挨拶、言葉遣いや礼儀作法とともに、提出物を期限内に提出すること等について日常的に指導する。</p> <p>○時間厳守、スマートフォン等の使用マナー遵守など基本的な生活習慣を確立し、他者を思いやり、自律した行動がとれる力を育成する。</p> <p>○「新聞を読む」の企画を通して、生徒に背景知識を豊かにさせるとともに、望ましい社会の実現に向けて活動しようとする意欲を喚起させる。</p> <p>○社会人基礎力向上のために書籍充実に取り組むとともに、新聞や関連図書を広く収集し、情報提供を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	

改善課題

(年度末に記載)

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校全体の組織力の向上	<p>○学年・進路の懇談会や、担当者会議等を通して意思疎通を図り、生徒への円滑でよりよい進路指導および教科指導を行うよう努める。</p> <p>○授業アンケートを活用し、指導力向上および授業改善に向け、各種研究会や教科研修会へ積極的に参加し指導技術等の向上を目指す。</p> <p>○クラブ情報を共有できるような広報活動に努め、様々な形で部活動情報を集約し、全体に還元する取り組みを継続していく。</p> <p>○日頃から生徒に関する情報共有を行い、個々の事例について連携を図り教員一人が抱え込むことのないようチームとして臨めるよう努める。</p>	(年度末および適宜記載)	
開かれた学校づくり	<p>○学年だよりによる保護者への情報提供を随時行う。</p> <p>○学年別保護者進路説明会を年1回実施。</p> <p>○PTA活動や学校関係者評価委員会を通して、保護者や地域住民の学校運営への参画を進める。</p> <p>○ホームページなどを通じて学校の取り組みを紹介し、多様な意見を聞くとともに、学校開放に積極的に取り組む。</p> <p>○授業公開の取組を進める。</p> <p>○新着図書案内を家庭にも配布することで保護者にも図書館を開放していく。</p> <p>○不安を抱える保護者のためにも教育相談室の活用及びカウンセラーの紹介など、広報活動に努める。</p> <p>○外部の方に対して親切丁寧な窓口対応や電話対応に努める。</p>	(年度末および適宜記載)	
目指す姿の具現化	<p>○目指す学校像の具現化に向けて、本校のあるべき姿や目指すべき方向性等について様々な場で対話を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョン委員会の開催:年6回以上 ・学力向上推進会議の開催:年6回以上 ・校長と教職員との面談:一人平均年3回以上 	(年度末および適宜記載)	
働きやすい職場づくり	<p>【総勤務時間縮減について】</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を月に1日 ・部活動休養日を週に1日 ・放課後に開催される会議のうち、95%を60分以内に終了する。 	(年度末および適宜記載)	

	○成果指標 ・時間外労働時間ひと月あたり5時間削減 ・休暇取得日数年間1日増加 ・月80時間を超える時間外労働者を延べ25人削減		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)